[6411][KESCO FAQ][COMSOL][マーカー無]Linux®マシンにCOMSOL6.4ライセンスマネージャーのみセットアップする方法

2024年12月24日　　15:36

【タグ】

物理分野

- ☐電磁気学
- ☐化学（電池・電気めっき・腐食）
- ☐流体/伝熱
- ☐構造/音響

カテゴリ

- ☑導入/変更
- ☐製品概要
- ☑チュートリアル

機能

- ☐エラーメッセージ
- ☑インストール
- ☐GUI/便利な機能
- ☐アプリケーションビルダー
- ☐メッシュ
- ☐ジオメトリ
- ☐材料
- ☐フィジックス
- ☐ポスト処理
- ☐スクリプト
- ☐ソルバー

【タイトル】

Linux®マシンにCOMSOL6.4ライセンスマネージャーのみセットアップする方法[6411]

【質問】

下記のCOMSOL Multiphysics®ライセンスファイルを入手しました。このファイルを使用してLinux®マシンにCOMSOLライセンスマネージャーのみセットアップする方法を教えてもらえないでしょうか。

項目	内容
指定されたバージョン	6.4 (ビルド293)
ライセンスタイプ	Floating Network License（以降、FNLライセンス） もしくは Class Kit License（以降、CKLライセンス）
プラットフォーム	Linux®

【回答】

ここでは以下を想定したインストール手順を説明いたします。

- 想定

1. ハードウェア
   【1.1】 特にありません。
2. ネットワークおよびセキュリティ
   【2.1】 LANもしくはインターネットにアクセスできます。
   【2.2】 ファイアウォールは有効にしておりません。
3. OS
   【3.1】 インストール先のプラットフォームはLinux®です（Windows®ではありません）。
   【3.2】 インストールする時点において、OSは更新プログラム等でアップデート済みです。
   【3.3】 インストール作業を行うユーザーアカウントは下記の権限を持っております。
      【3.3.1】 rootになることができます。
      【3.3.2】 root権限のコマンド（sudo）を実行できます。
   【3.4】 root権限でCOMSOL Multiphysics®のsetupファイルを実行し、GUIのセットアップ画面を表示できます。
4. COMSOL Multiphysics®およびCOMSOLライセンスマネージャーについて
   【4.1】 指定されたバージョンは 6.4 (ビルド293) です。（注意２）
   【4.2】 指定されたバージョンのCOMSOLライセンスマネージャーのインストールディレクトリは下記の通りです。（注意１）
      /usr/local/comsol##/multiphysics
   【4.3】 COMSOLライセンスマネージャーをOSのサービスとしてセットアップします。
   【4.4】 COMSOL Multiphysics®およびCOMSOLライセンスマネージャーのイン

ストール状態は下記の３つを想定します。

【4.4.1】 当該マシンは過去バージョンも含め、COMSOL Multiphysics®をインストールしたことがなく、指定されたバージョン用（FNLもしくはCKL）ライセンスのCOMSOLライセンスマネージャーのみ初めてインストールします。

【4.4.2】 指定されたバージョン用トライアルパスコードを適用したCOMSOL Multiphysics®が既にインストールされております。

i. 今回、指定されたバージョン用（FNLもしくはCKL）ライセンスのCOMSOLライセンスマネージャーを別の場所にインストールします。
ii. 指定されたバージョン用トライアルパスコードでインストールしたCOMSOL Multiphysics®はアンインストールしません。

【4.4.3】 過去バージョン用（FNLもしくはCKL）ライセンスを適用したCOMSOLライセンスマネージャーがインストールされております。

i. 今回、指定されたバージョン用（FNLもしくはCKL）ライセンスのCOMSOLライセンスマネージャーを新規でインストールします。
ii. 過去バージョン用（FNLもしくはCKL）ライセンスで動作しているCOMSOLライセンスマネージャーは本インストール作業を行う前までに停止しております。（注意３）
iii. 過去バージョン用（FNLもしくはCKL）ライセンスを適用したCOMSOLライセンスマネージャーはアンインストールしません。
iv. 当該マシンに設定している過去バージョンのCOMSOLライセンスマネージャーサービスは、指定されたバージョンのCOMSOLライセンスマネージャーサービスで上書きします。

注意１：ここで説明する内容は、COMSOLライセンスマネージャーのインストール手順です。インストール済みのライセンスファイルを今回入手したファイルで差し替えるといった手順ではない点にご留意ください。

注意２：指定されたバージョンである二けたの数値（例：64もしくは6.4）を ## と表記しますので、以降は読み替えてください。

注意３：COMSOLライセンスマネージャーを停止する方法は下記FAQで説明しております。

KESCO FAQ：Linux®マシンで起動中のCOMSOLライセンスマネージャーを停止する方法

（上記の下線を引いた文章にURL https://kesco.co.jp/support/10061/ を埋め込んでもらえないでしょうか？）

- 手順の概要
    1. COMSOL Accessアカウントへのアクセス
    2. COMSOL Multiphysics®セットアップファイルの入手
    3. Linux®向け（FNLもしくはCKL）ライセンスを使用したCOMSOLライセンスマネージャーのセットアップ
    4. COMSOLライセンスマネージャーの状態を確認します

（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか）

1. COMSOL Accessアカウントへのアクセス

COMSOL社ウェブサイトの「ダウンロード(製品インストーラー)」をクリックすると、COMSOL Multiphysics®のインストール用 ISO イメージファイルがダウンロードできるようになっております。

【1.1】 COMSOL Accessにログインし、下記URLのページを開きます。

URL：https://www.comsol.jp/access/login
（←URLとしてリンクを設定してもらえないでしょうか）

i. 既にCOMSOL Accessアカウントを作成済みの場合、登録済みの「E メール」と「Password」を入力して、[LOG IN]ボタンをクリックします。
ii. COMSOL Accessアカウントを作成していない場合、画面右下隅の「新規作成（Sign up now）」のリンクをクリックして登録を行ないます。
    - COMSOL Accessアカウント登録を完了し、このアカウントを有効化するには、COMSOL社から送付される確認メールに記載されているリンクをクリックする必要があります。そのため、お客様ご自身が受信できるメールアドレスで登録を行なってください。

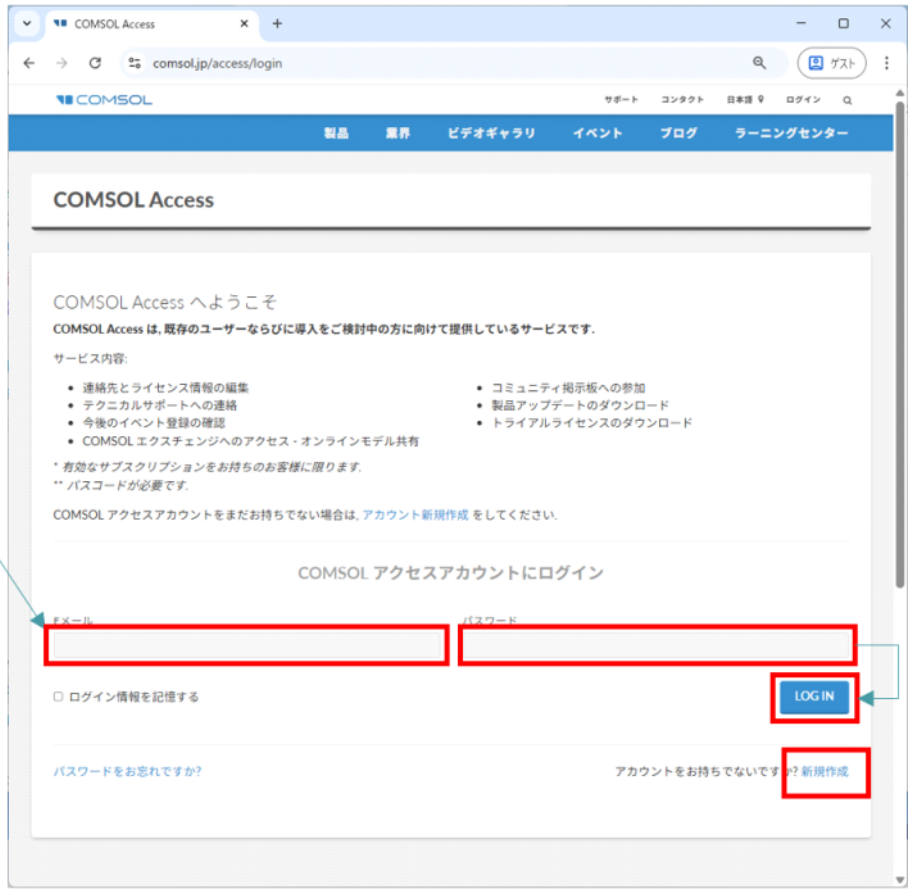

図1-1 COMSOL Access

iii. ログイン後、画面右上に表示されているお客様名をクリックします。すると、「COMSOL Accessアカウントへようこそ！」が表示されます。

iv. 画面右側にある「ライセンス管理（Manage Licenses）」をクリックし、「ライセンス管理」ページに移動します。

図1-2 COMSOL Access

v. 保守期間中のライセンスが表示されることを確認します。ライセンスが登録されていない場合や保守切れのライセンスが表示されると、最新版のCOMSOL Multiphysics®インストレーションにアクセスできません。このような場合、お手持ちの新しいライセンスファイルを「ライセンス追加（Add License）」ボタンで追加します。ライセンスについてご不明な点がある場合、担当営業にお問い合わせください。

図1-3 ライセンス管理

2. COMSOL Multiphysics®セットアップファイルの入手

【2.1】 COMSOL社ウェブサイトの「ダウンロード(製品インストーラー)」ページを開きます。

URL：https://www.comsol.jp/product-download
（←URLとしてリンクを設定してもらえないでしょうか）

画面を下側にスクロールすると、「オフラインインストレーション」枠があります。この中にある「ISO - Windows®/Linux® - **GB」ボタンをクリックします。

- Linux®の場合、ISOイメージファイル(拡張子*.iso)を仮想DVDディスクとしてドライブ名を割り当ててディスクの内容を読み込める機能があります。その場合、物理DVDディスクの片面容量(4.9GB)を超えるデータも取り扱い可能で、複数枚に分ける必要はありません。

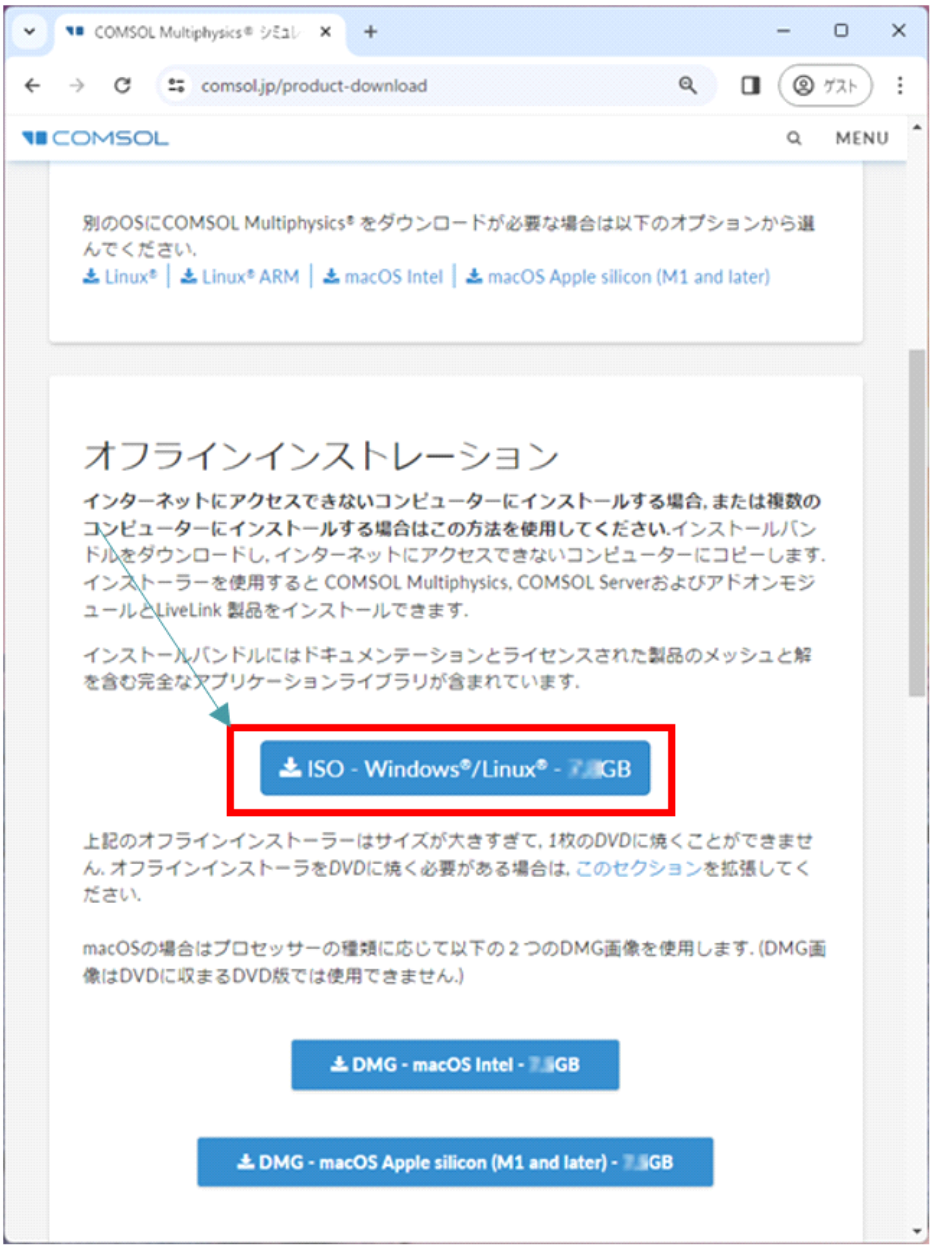

図2-1 オフラインインストレーションのダウンロード画面

【2.2】 ダウンロードしたISOイメージファイルの関連付けを確認します。

ファイルマネージャー（例：Nautilus）を使用する場合、ダウンロードが完了すると、下図のようなISOイメージファイルのアイコンが表示されます。

- ファイル/プログラムの関連付けが「ディスクイメージマウンター」以外になっていますと、期待した動作結果にならない場合があります。念のため、このファイルを右クリックし、コンテキストメニューの「プロパティ」＞「開き方」タブを開き、「ディスクイメージマウンター」に関連付けされていることを確認します。

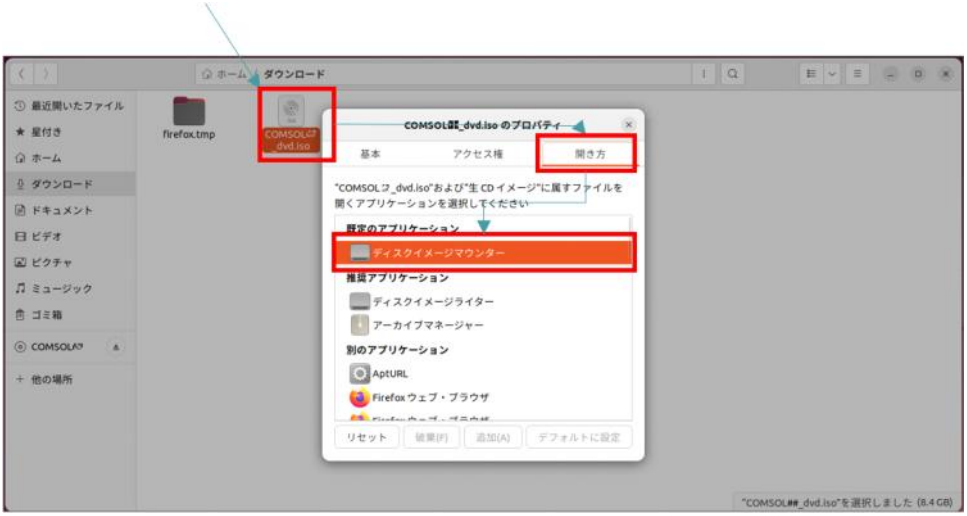

図2-2 ISOイメージファイルの関連付け（例：Nautilus）

3. Linux®向け（FNLもしくはCKL）ライセンスを使用したCOMSOLライセンスマネージャーのセットアップ

Linux®マシンに（FNLもしくはCKL）ライセンスを使用したCOMSOLライセンスマネージャーのみセットアップする方法を示します。

【3.1】 Linux®のデスクトップ環境にログインします。

注意：対話形式でCOMSOL Multiphysics®をインストールするため、GUIを備えたデスクトップ（例：統合デスクトップ環境）にroot権限を持ったアカウントでログインします。

図3-1 Ubuntu®の統合デスクトップ環境

【3.2】 （FNLもしくはCKL）ライセンスファイルをホームディレクトリに保存しま

す。

i. できる限り分かりやすいファイル名でホームディレクトリに配置します。

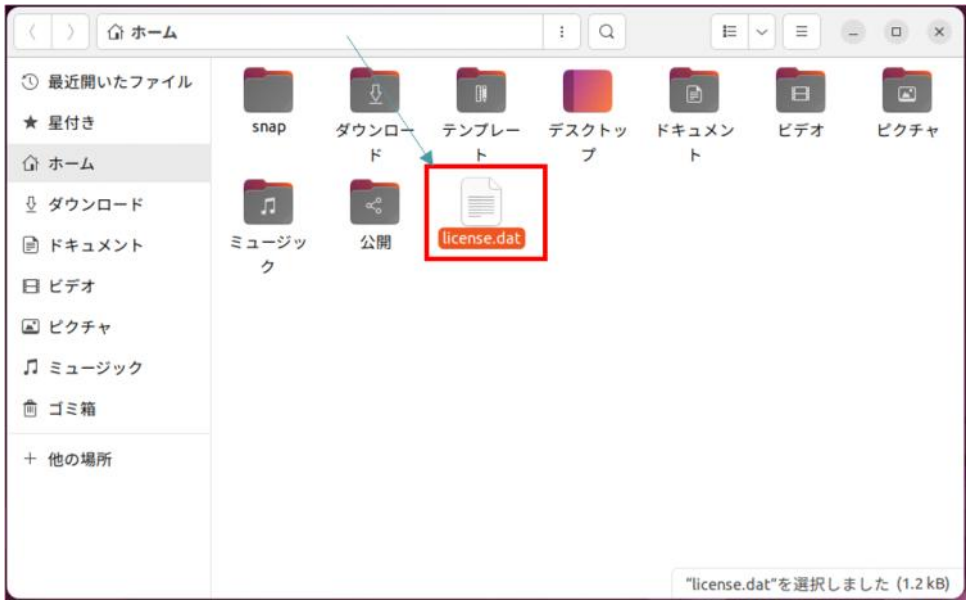

図3-2 ホームディレクトリに保存したライセンスファイル（例：Nautilus）

【3.3】 ダウンロードしたISOイメージファイルを仮想DVDとしてマウントします。

[GUI]

i. ダウンロードしたISOイメージファイルのアイコンをダブルクリックします。

ii. 仮想DVDがマウントされます。

iii. ターミナルを起動し、マウントした仮想DVDのディレクトリを下記コマンドで確認します。

コマンド例：

```
$ df
```

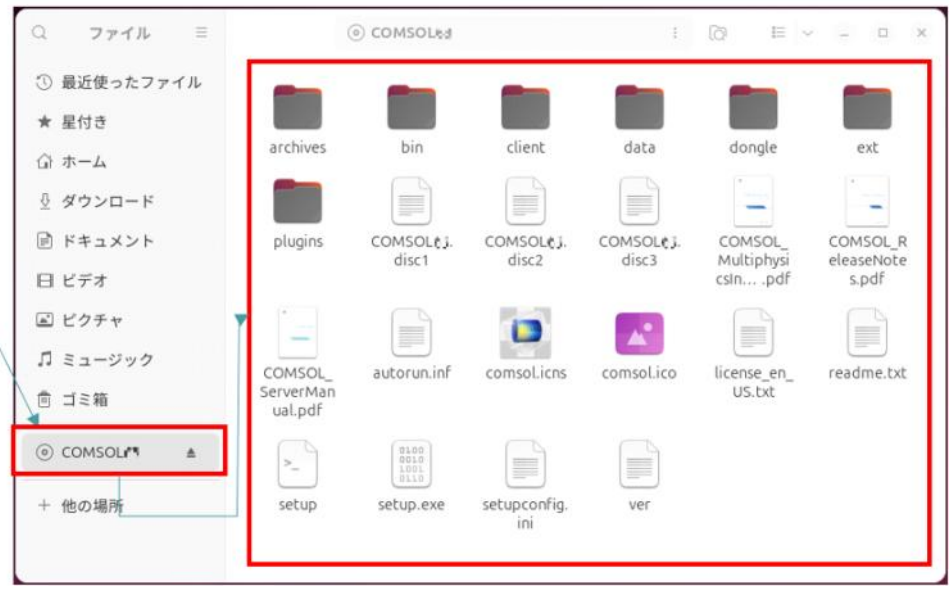

図3-3 仮想DVDとしてマウントされたISOイメージファイル（例：Nautilus）

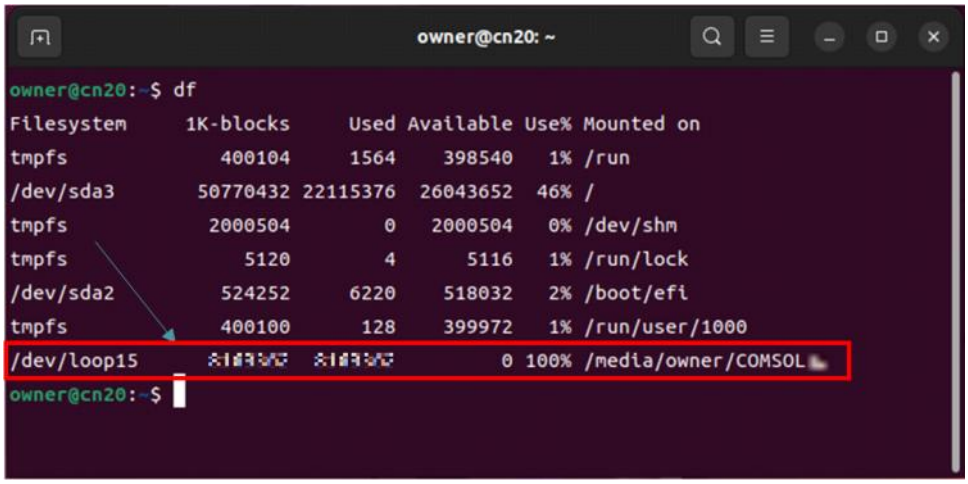

図3-4 マウント位置の確認（dfコマンド）

[CLI]

i. 指定したディレクトリにISOイメージファイルをマウントするため、下記コマンドを実行します。

コマンド例：

$ sudo mkdir -p /media/COMSOL##

$ sudo mount -o loop -t iso9660 ./COMSOL##_dvd.iso /media/COMSOL##

注意：mountコマンドはroot権限で実行しなければなりません。上記コマンド例の場合、sudoコマンドで対応しております。上記の##は指定されたバージョンの数値に変更します。

注意：コマンドを実行する場合、改行せずに一行で入力します。

注意：mountコマンドを実行すると、「WARNING: source write-protected, mounted read-only」といったメッセージが出力されますが、これは読み取り専用であることを示しております。インストール作業に支障はきたしません。

図3-5 ISOイメージファイルのマウント（mountコマンド）

【3.4】 “COMSOLインストーラー”を起動します。

i. ターミナルを開き、setupファイルが格納されたディレクトリに移動した上、root権限（sudo）でインストーラーを起動します。

$ sudo ./setup

⇒ “COMSOLインストーラー”のGUI画面が起動されます。

図3-6 root権限（sudo）で実行するsetupファイル

注意：想定 【3.4】（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか） で説明した通り、sudo ./setup を実行して、GUI画面が表示されることを想定しております。ただ、「cannot open display」といったエラーメッセージが発生してGUI画面を表示できない場合、まずは一般的な対応方法（①環境変数DISPLAYの値を指定する、②xhost コマンドを用いて認証を解除する、③コンソールで実行する、等）をお試しください。

【3.5】 “COMSOLインストーラー”のGUI画面で、下記操作を行います。

i. “日本語（Japanese)” のラジオボタンをオンにします。
ii. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。

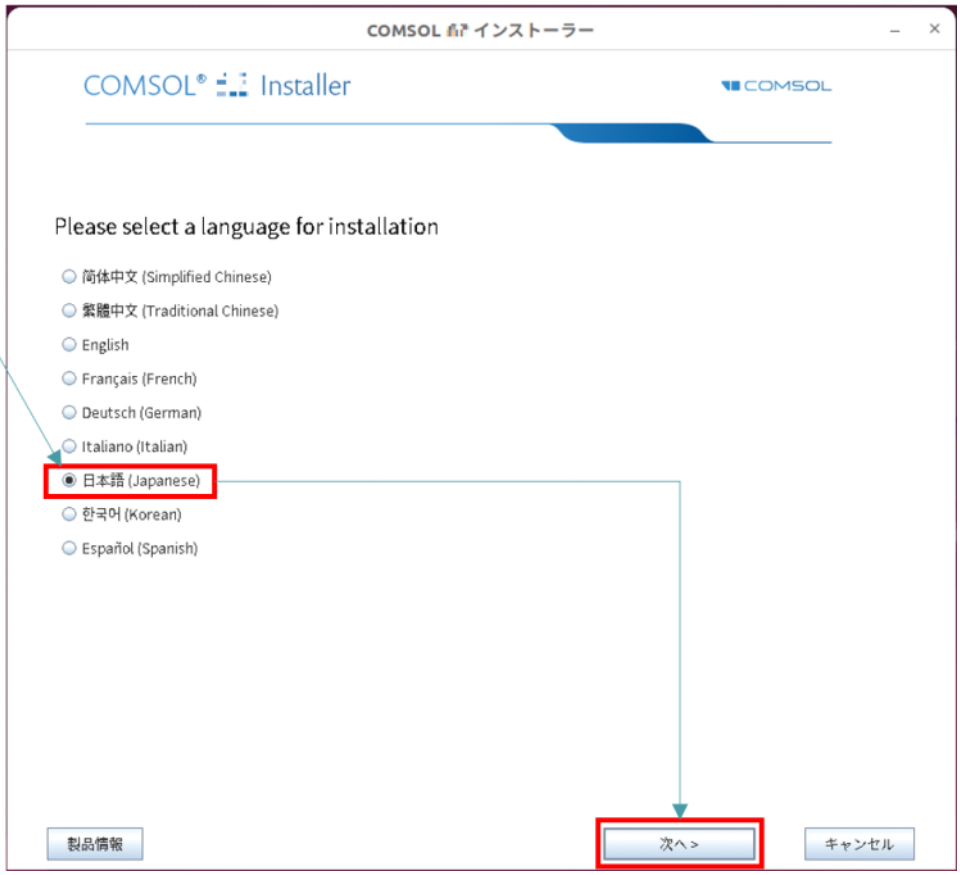

図3-7 言語選択画面

【3.6】 メニュー画面で、下記操作を行います。

i. “新規COMSOLインストール”のアイコン をクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

図3-8 メニュー画面

【3.7】“ライセンス”画面で、下記操作を行います。

i. “私はこのライセンス契約の条項に同意し、これを受け入れることで他の全ての条項が拒否されることを 理解し認めます”の ラジオボタンをオンにします。

ii. “ライセンス書式”ドロップダウンリストから “ライセンスファイル”を選択し、右側にある[ブラウズ]ボタンを押下します。"ライセンスファイルを選択してください"画面が開きますので、手順 【3.1】（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか） のライセンスファイルを指定し、[開く]ボタンを押下します。

iii. "チェック"ボタンを押下し、"ライセンス情報"画面を表示します。「ライセンスは有効です」と記載されることを確認し、[閉じる]ボタンを押下します。（注意１）

iv. "名前"と"会社"にお客様のお名前と貴社名（もしくは所属名）を英文字（１バイト）で入力します。

v. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

注意１：「ライセンスを有効化できませんでした」といったメッセージが表示されましたら、テキストエディタ等でライセンスファイルの中をご覧いただき、①バージョン②ライセンスタイプ③ライセンス番号④HostID（MACアドレス）を

ご確認ください。これらの内容についてご不明な場合、表示されたメッセージと適用したライセンスファイルを添えて文末の問い合わせ先にご連絡ください。

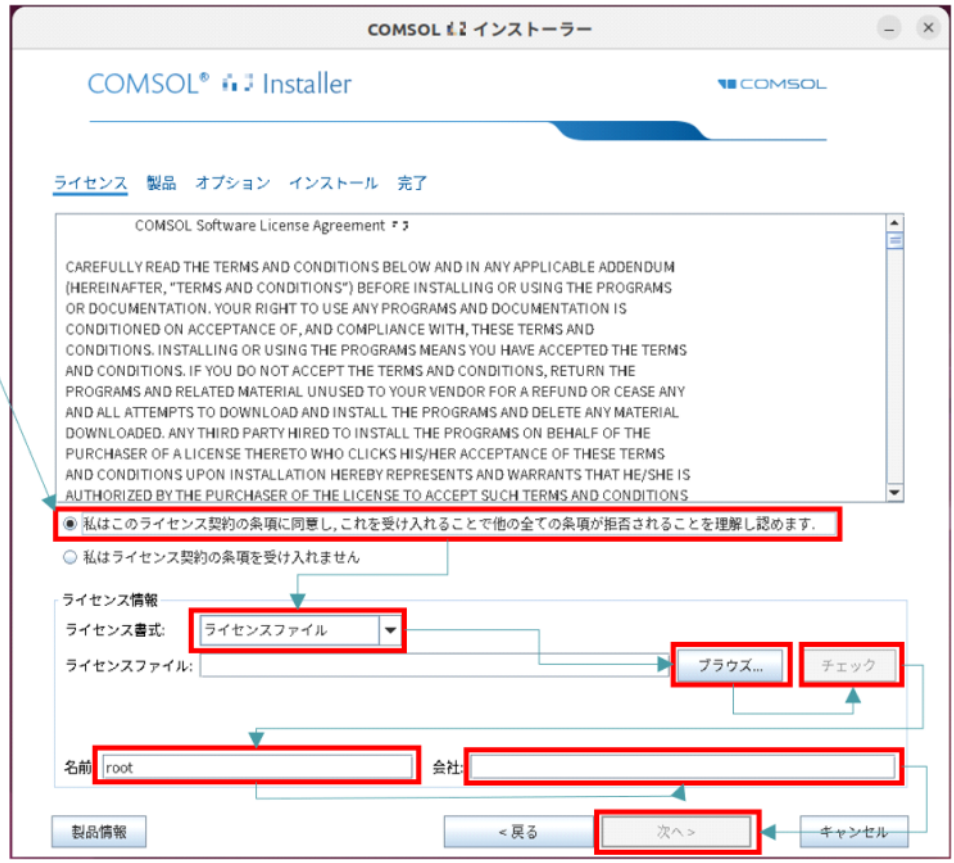

図3-9 ライセンス画面

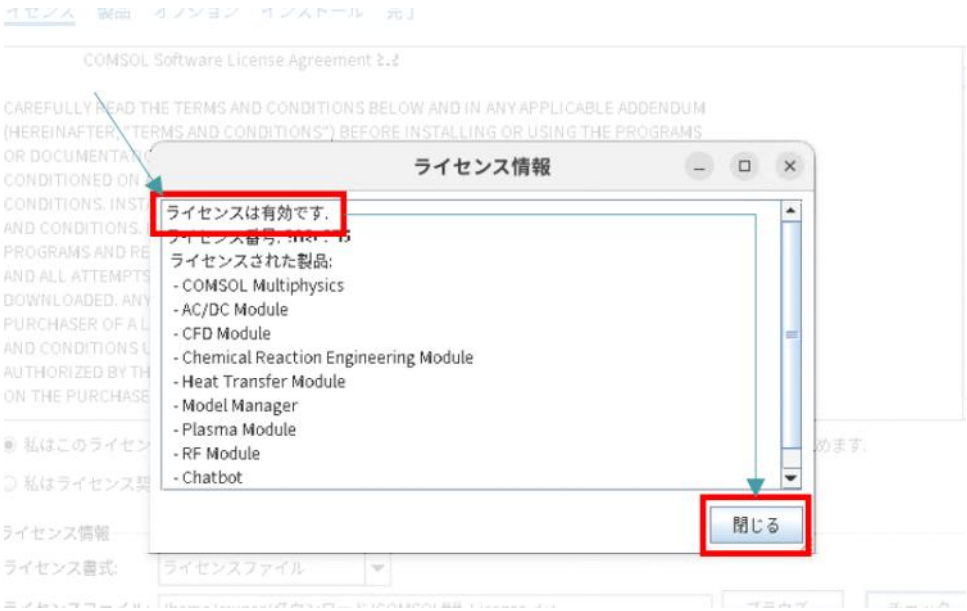

図3-10 ライセンス情報

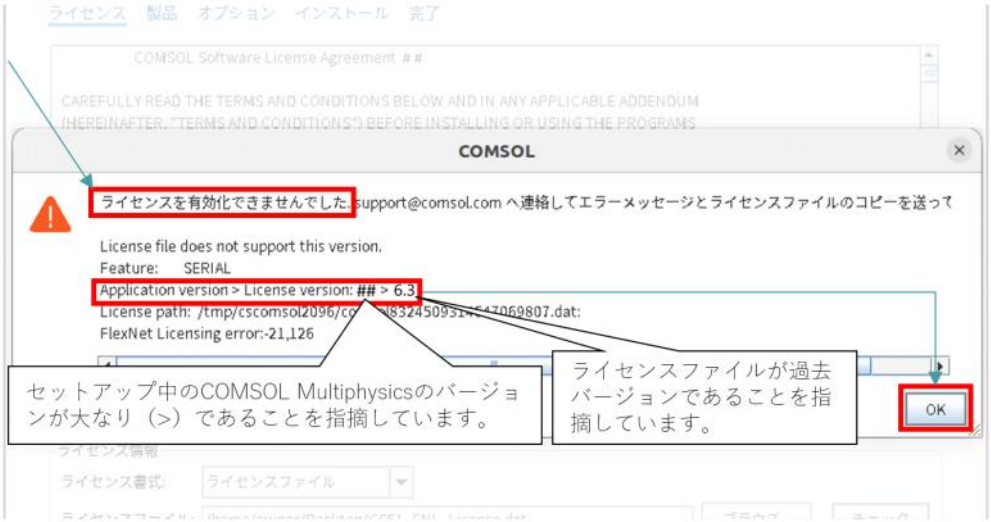

図3-11 ライセンスを有効化できませんでした（##は指定されたバージョンの数値に読み替えます）

【参考】"ライセンス番号"画面

この画面は一つのライセンスファイルに複数のライセンス番号のCOMSOLライセンスを発行している場合に表示します。

i. COMSOL Multiphysicsと記載されているライセンス番号を選択します。その後、[ライセンスをチェック]ボタンを押下します。

ii. 製品名が表示されますので確認します。その後、[閉じる]ボタンを押下します。

図3-12 ライセンス番号

図3-13 ライセンス情報

【3.8】“製品”画面で、下記操作を行います。

i. 画面左側に[インストールする製品を選択してください]が表示されます。「COMSOL Multiphysics」の全てのモジュールをインストールしませんので、チェックを外します。すると、サブツリーの全てのチェックが外れます。
ii. 「COMSOL Multiphysics」ツリーの一番下に移動すると、同じ階層に「ライセンスマネージャー」があることを確認します。ここでは、COMSOLライセンスマネージャーのみインストールするため、「ライセンスマネージャー」にチェックを入れたままにします。
iii. 画面右側の[アプリケーションライブラリ]と[ドキュメンテーション]は、COMSOL Multiphysics®のモジュールをインストールする際の選択肢を用意しておりますが、COMSOLライセンスマネージャーのみインストールする場合、これらのラジオボタンは機能しません。何を選択しても結果は変わりませんので、そのままにしておきます。
iv. “インストール先フォルダー”は初期設定で下記のようになっております。（注意１～注意３）
    - /usr/local/comsol##/multiphysics
v. 画面右下にある [ディスク空き容量] の数値を確認します。（注意４）
vi. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

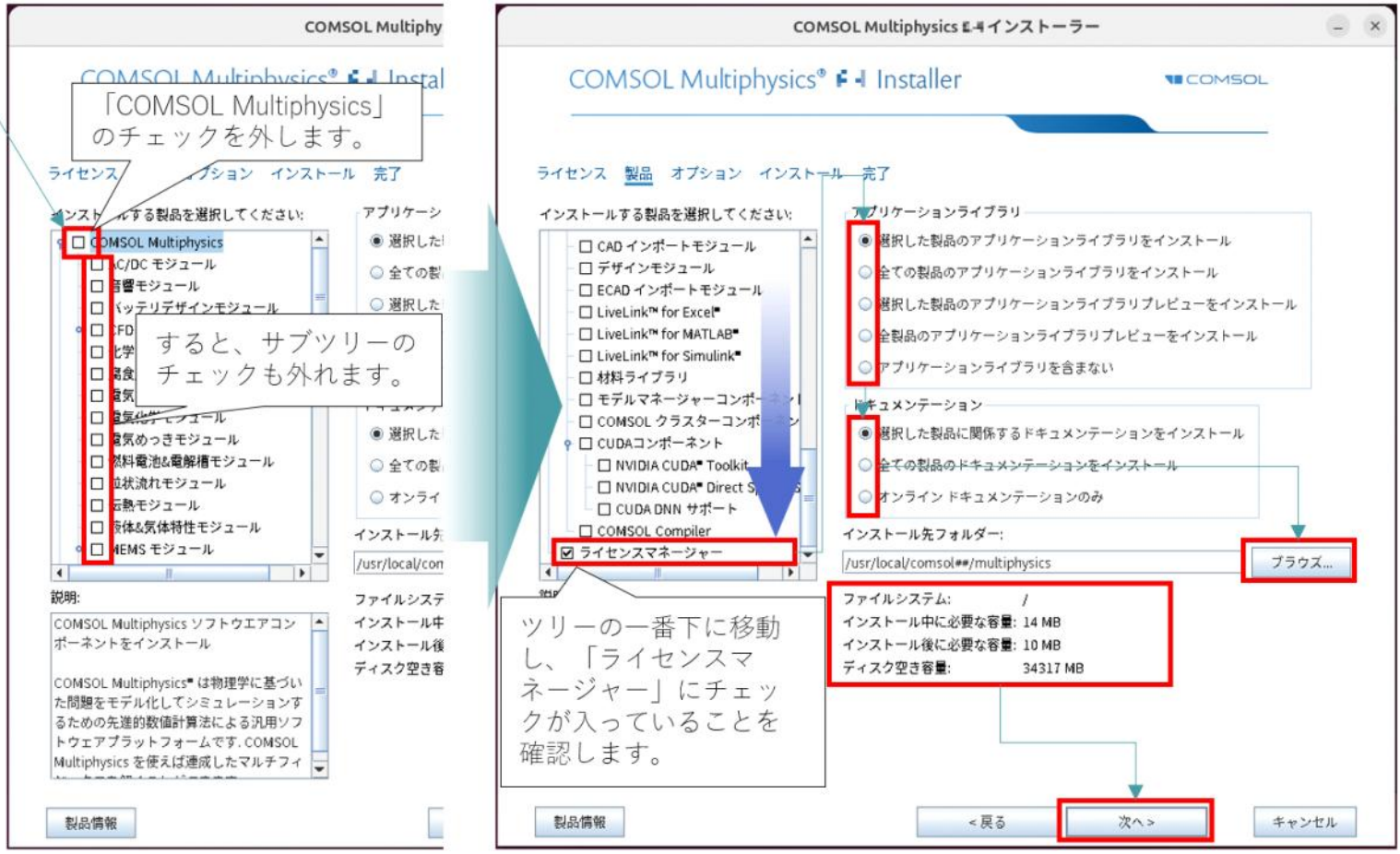

図3-14 製品画面

注意１：指定されたバージョンのCOMSOL Multiphysics®もしくはCOMSOLライセンスマネージャーを初めてインストールする際であっても、/usr/local/comsol##/multiphysics_copy1 といったように「_copy1」が付く場合、./multiphysicsディレクトリ配下にファイルが残っていると思われます。それらのファイルを移動もしくは削除していただき、./multiphysicsディレクトリも削除していただければ、上記のデフォルトディレクトリでセットアップできます。上記の##は指定されたバージョンの数値に変更します。

注意２：指定されたバージョンのCOMSOL Multiphysics®もしくはCOMSOLライセンスマネージャーをデフォルト以外の場所に新規でインストールする場合、[ブラウズ...]ボタンをクリックし、インストール先を変更します。##は指定されたバージョンの数値に変更します。

[例]：/usr/local/comsol##/multiphysics_LM

注意３：“インストール先フォルダー”のパスに 2 バイト文字コード（例：日本語）が含まれていると、インストールできない可能性があります。その場合、 2 バイト文字コードが含まれないよう、フォルダ名を変更します。

注意４：画面右下に必要なディスク容量とインストール先ディスク空き容量が表示されます。ディスク空き容量が足りませんと、[次へ] をクリックした時にエラーが出て処理が継続できません。その際は“インストール先フォルダー”の [ブラウズ...] ボタンをクリックし、別ドライブのフォルダーを選択するといった方法等で対応します。

【3.9】 “オプション”画面で下記操作を行います。

i. デフォルトの設定は下記の通りです。
   - [✓]COMSOLロンチャー作成（注意１）
   - [✓]シンボリックリンクを/usr/local/binに作成（注意１）
   - [✓]インストール後アップデートをチェック

ii. 特に問題がなければ、そのままにしておきます。

iii. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。

図3-15 オプション画面

注意１：COMSOL Multiphysics®のモジュールをインストールしない場合、「COMSOLのロンチャー作成」と「シンボリックリンク」にチェックを入れても設定は行われません。そのため、特に問題がなければ、そのままにしておきます。

【3.10】 "ライセンスマネージャー"画面で下記操作を行います。（注意１）

i. デフォルトの設定を確認します。
   - [✓]systemdサービスとしてライセンスマネージャーをインストール（注意２）
   - デバッグログファイルへのパス：[/var/tmp/comsol##.log]（注意３）

- サービス名：[lmcomsol]（注意４）
- ライセンスマネージャーを実行するユーザー：[　　]（注意５）
- ユーザーグループ：[　　]
- 追加のライセンスマネージャーオプション
  - [　]このコンピュータからのみ'lmdown'コマンドを実行するのを許可
  - [　]'lmdown'コマンドを無効化
  - [　]'lmremove'コマンドを無効化

ii. 特に問題がなければデフォルトの設定にしておきます。

iii. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。

図3-16 ライセンスマネージャー画面

注意１："ライセンスマネージャー"画面が表示されない場合、手順【3.8】（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか）でライセンスマネージャーのチェックが外れてしまった可能性があります。ライセンスマネージャー画面が表示されない場合、”インストール”画面をキャプチャーした画像ファイルとライセンスファイルを添えて文末にあるお問い合わせ先へご連絡ください。速やかに弊社で調査いたします。

注意２：systemdサービスにチェックを入れておりますので、/usr/lib/systemd/system/lmcomsol.service をインストールすることになります。

注意３：##は指定されたバージョンの数値に変更します。

注意４：サービス名はグレー表示であり、変更することはできません。

注意５：ライセンスマネージャーを実行するユーザーを空欄のままで先に進める

と、COMSOLセットアップはリスクがあることをポップアップ画面で警告します。[はい] を押下すると、COMSOLセットアップは、ライセンスマネージャーを実行するユーザーを「root」に設定します。

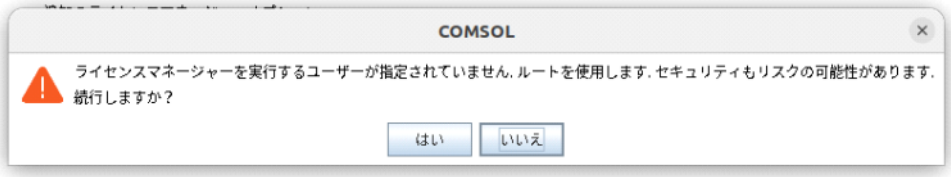

図3-17 COMSOL画面（ライセンスマネージャーを実行するユーザーが設定されていません）

iv. 「次へ>」ボタンを押下した時に下記メッセージが表示される場合、次の v. に進みます。下記のメッセージが表示されない場合は手順【3.11】（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか） に進みます。

COMSOL
COMSOL ライセンスマネージャーが既にサービスとして実行中
既存のCOMSOLライセンスマネージャーサービスを上書き？
[はい][いいえ]

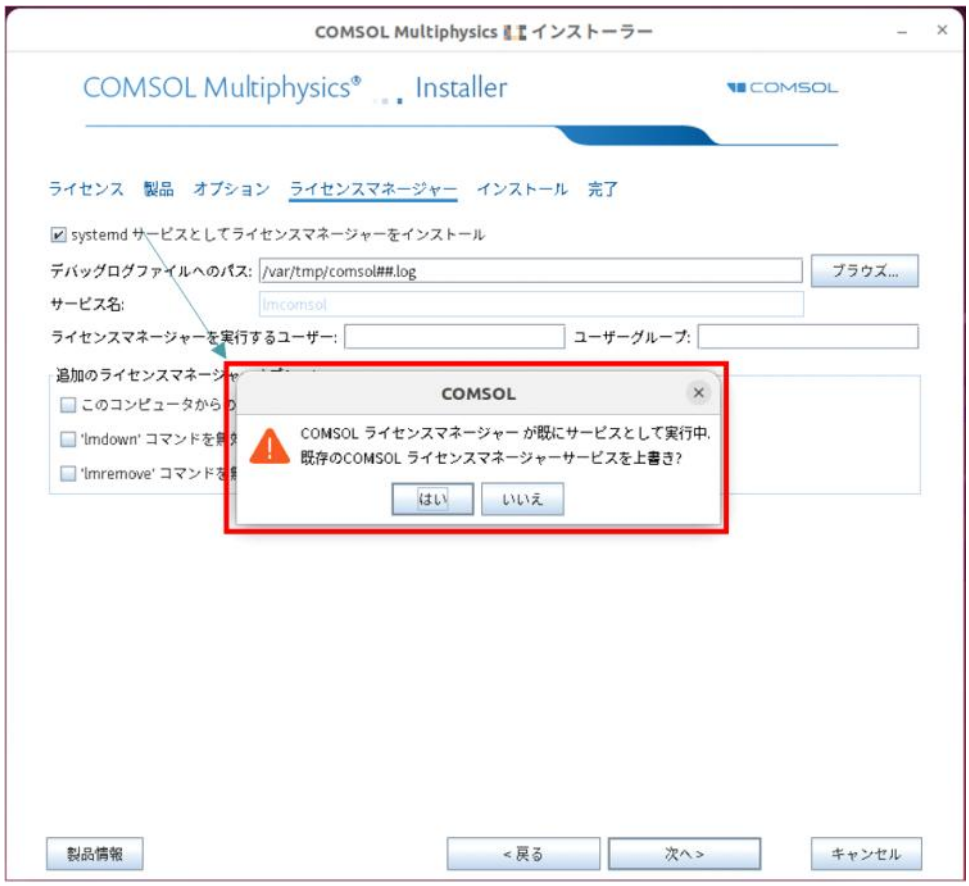

図3-18 COMSOL画面（COMSOLライセンスマネージャーが既にサービスとして実行中）

v. 上記のメッセージは既にCOMSOLライセンスマネージャーがサービスとしてセットアップされていることを指摘しております。この画面でサービスを上書きするか否かを指示します。判断基準は下記の通りです。

- 過去バージョン用COMSOLライセンスマネージャーのサービスがセットアップされている場合：
  - サービスを上書きします。
- 指定されたバージョン用COMSOLライセンスマネージャーのサービスがセットアップされている場合：
  - サービスとしてセットアップされているライセンスファイルの内容を確認します。
    - 今回用意しているライセンスファイルの方が更新されている場合：
      - サービスを上書きします。
    - 今回用意しているライセンスファイルと同一である場合：
      - サービスを上書きする必要はありません。
- 指定されたバージョンよりも新しいバージョン用COMSOLライセンスマネージャーのサービスがセットアップされている場合：
  - サービスを上書きしません。

下記の「【参考】COMSOLライセンスマネージャーサービス（lmcomsol.service）の設定内容」をご覧いただくことで、COMSOLライセンスマネージャーサービスの設定内容を確認できます。

【参考】COMSOLライセンスマネージャーサービス（lmcomsol.service）の設定内容

i. 現在、実行しているCOMSOLライセンスマネージャーサービスの設定内容を確認するため、ターミナルで下記コマンドを実行します。
   $ cat /usr/lib/systemd/system/lmcomsol.service

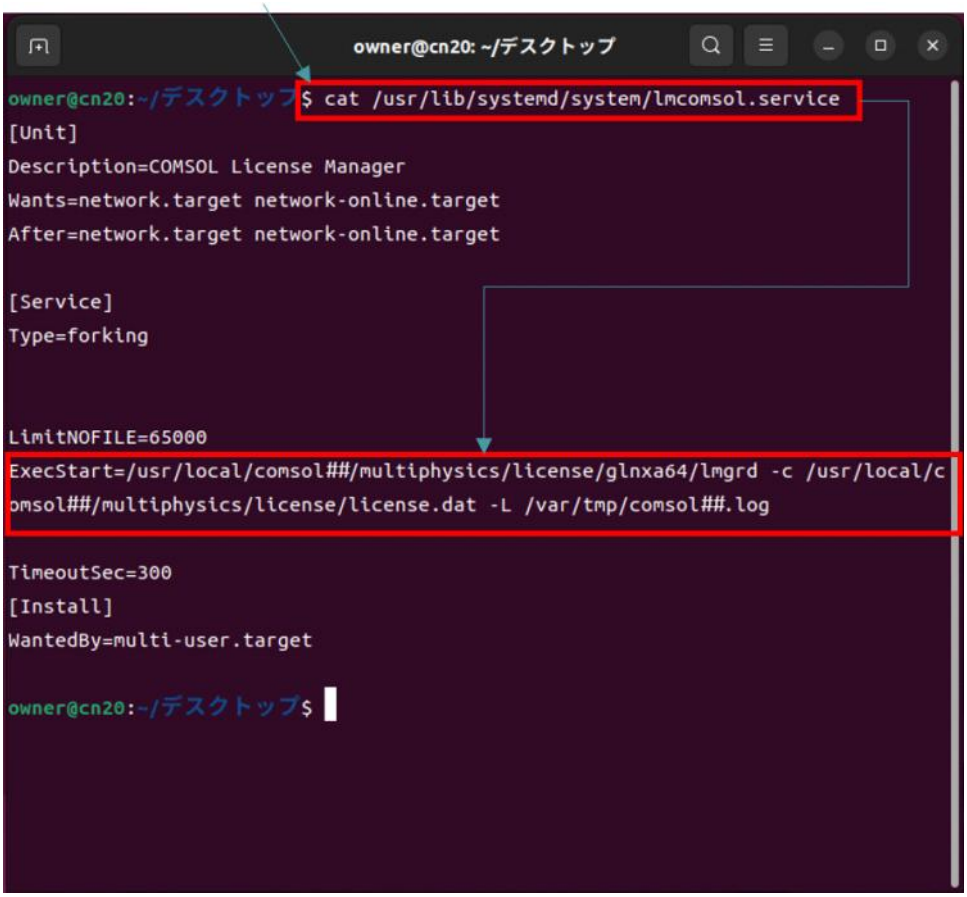

図3-19 lmcomsol.service

ii. 上記コマンドで出力された11行目「ExecStart」の書式を示します。

ExecStart=[絶対パスの実行ファイル] -c [絶対パスのライセンスファイル] -L [絶対パスのデバッグファイル]

iii. この書式に則って、次の①と②の内容を確認します。

①. COMSOLのバージョン（二桁の数字）を [絶対パスの実行ファイル] に記載されている数字（例：「comsol##」の##）で確認します。（注意１）

②. [絶対パスのライセンスファイル] をテキストエディタで開き、内容を確認します。

注意１：##は表示されている数値に読み替えてください。

【3.11】 "インストール"画面では、COMSOLライセンスマネージャードキュメンテーションとライセンスマネージャーがリストされます。確認しましたら、[インストール]ボタンを押下し、インストールを実行します。

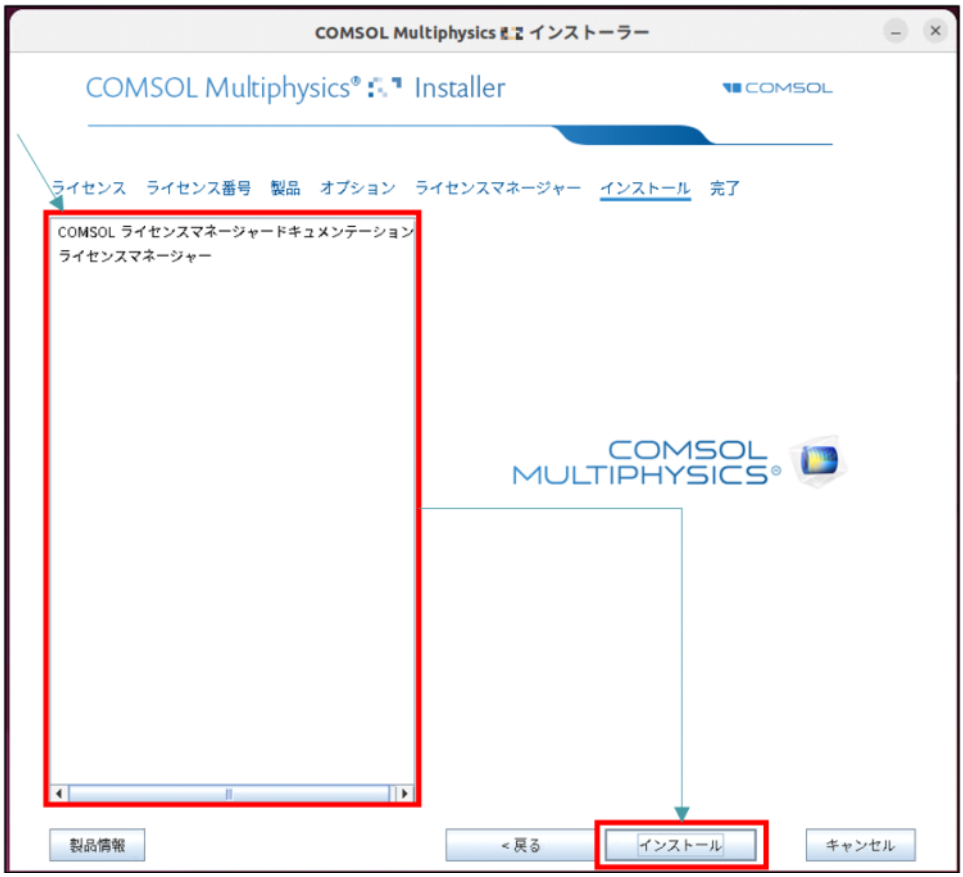

図3-20 インストール画面

【参考】「ファイルダウンロード中にエラー」が発生する場合の対処方法

オンラインインストーラーでCOMSOLのインストールを開始すると、「ファイルダウンロード中にエラー」が発生する場合があります。これはネットワークセキュリティによって COMSOL社のダウンロードサーバーに接続できないことが原因として考えられます。回避策はオフラインインストーラーをご利用いただく方法となります。詳細は「手順 2. COMSOL Multiphysics®セットアップファイルの入手」（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか）もしくは下記FAQをご参照ください。

KESCO FAQ：ファイルダウンロード中にエラー　ダウンロードサーバーへの接続をできませんでした（URL https://kesco.co.jp/support/9749/ を埋め込んでもらえないでしょうか？）

（下記エラーメッセージと分けて表示するため、空白行を一行入れてもらえないでしょうか）

エラーメッセージ

COMSOL
ファイルダウンロード中にエラー
ダウンロードサーバーへの接続をできませんでした

図3-21 ファイルダウンロード中にエラー

【3.12】 終了すると、"完了"になります。画面中央にある[ログを見る]ボタンを押下し、表示内容を確認します。

i. SUMMARY をご覧いただき、WARNINGS、ERRORS、FATAL ERRORSがすべて0であることを確認します。（注意１）
ii. インストールログの[閉じる]ボタンをクリックした後、COMSOL Multiphysics® インストーラーの[閉じる]ボタンをクリックします。

⇒“COMSOL インストーラー” が閉じます。

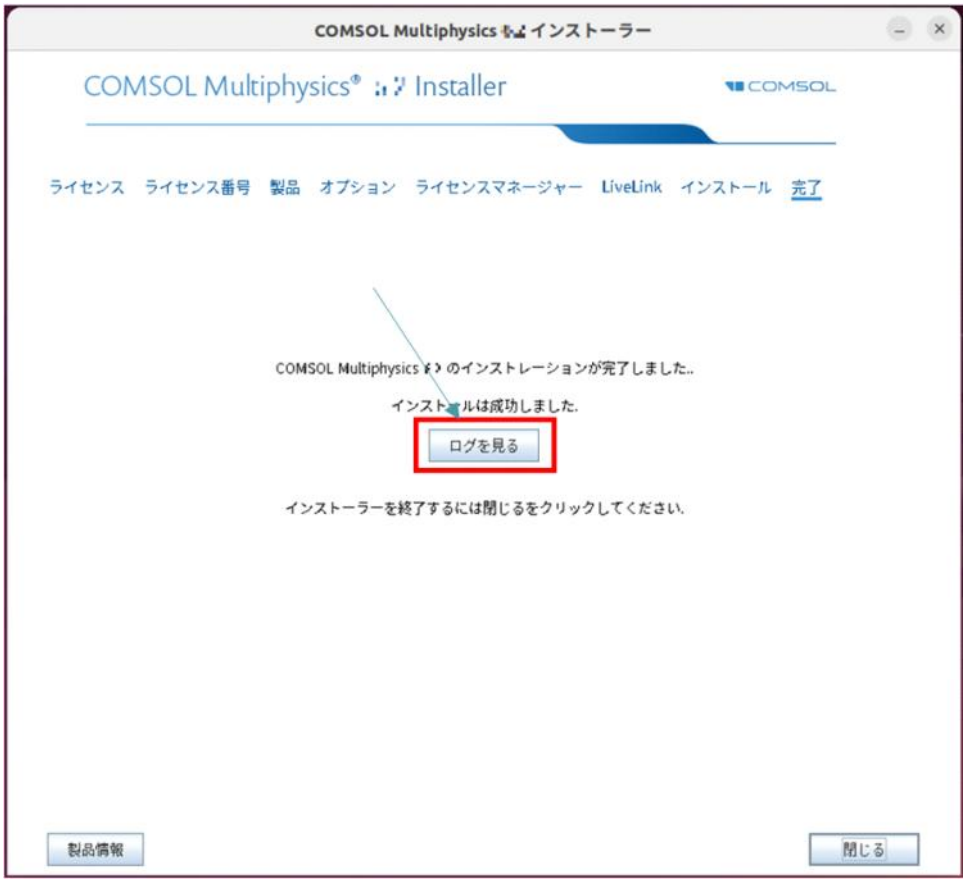

図3-22 完了画面

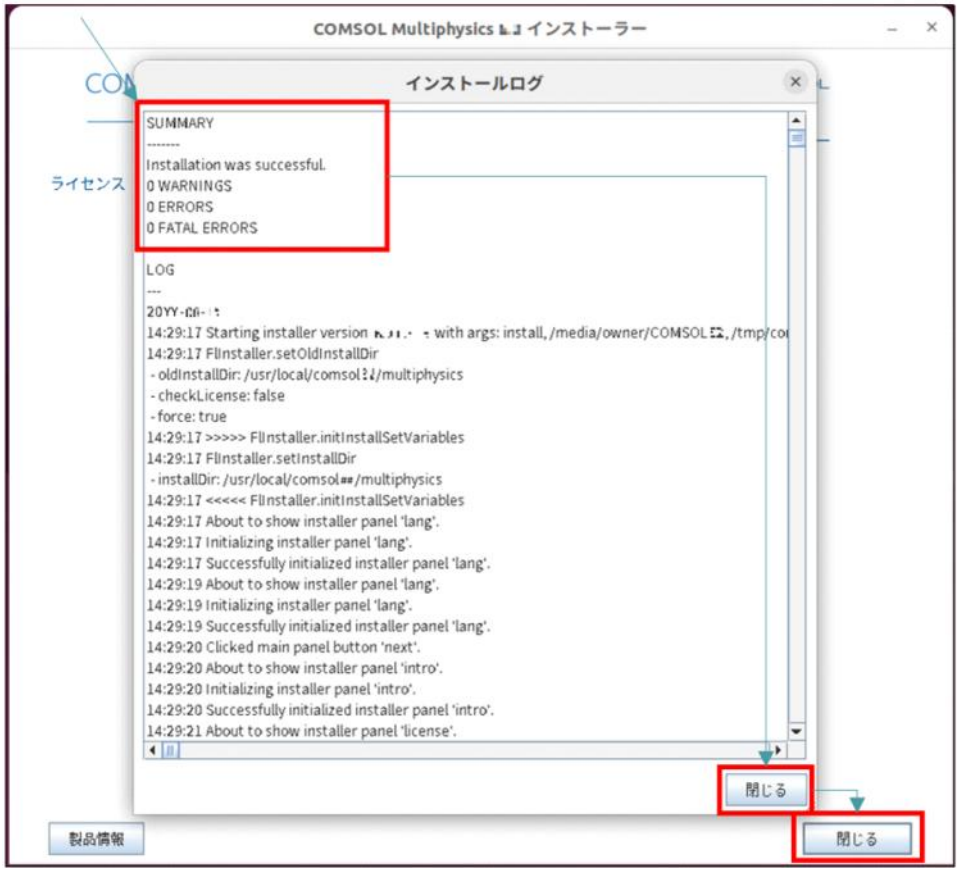

図3-23 インストールログ画面

注意１：WARNINGS、ERRORS、FATAL ERRORSが０以外でしたら、その内容をご確認いただければと思います。特にERRORSやFATAL ERRORSが出力された場合は注意深くその内容をご確認いただいた上でご対応ください。対応方法がご不明でしたら、下記のcomsolsetup.logファイルをお問い合わせ先にご送付い

ただくことで弊社がサポートいたします。下記の##は指定されたバージョンの数値に読み替えてください。

/usr/local/comsol##/multiphysics/comsolsetup.log

【3.13】 マウントしていた仮想DVDを取り出します。

[GUI]

i. setupが終了すると、ターミナルは入力待ちになります。仮想DVDをアンマウントするため、この画面を閉じます。
ii. デスクトップ環境のファイルマネージャー（例：Nautilus）を起動します。
iii. サイドバーに表示されている [COMSOL##] を右クリック、コンテキストメニュー>[アンマウント]をクリックします。

⇒ [COMSOL##] が消えます。

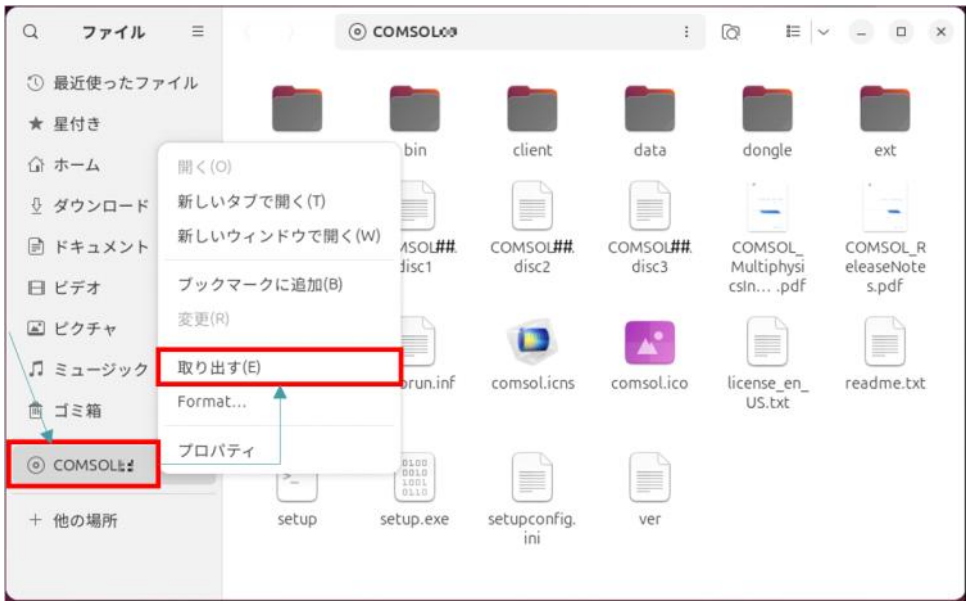

図3-24 完了画面およびインストールログ画面

[CLI]

i. setupが終了すると、ターミナルは入力待ちになります。カレントディレクトリをホームディレクトリに移動し、仮想DVDをアンマウントします。併せてマウントディレクトリを削除します。下記の##は指定されたバージョンの数値に変更します。

コマンド例：

```
$ cd ~
$ sudo umount /media/COMSOL##
$ sudo rmdir /media/COMSOL##
```

4. COMSOLライセンスマネージャーの状態を確認します

COMSOLライセンスマネージャーの実行状態とCOMSOLライセンスマネージャーサービス（lmcomsol.service）の設定内容を確認します。

【4.1】 COMSOLライセンスマネージャーの実行状態を確認します。

i. ターミナルを起動し、下記コマンドを実行します。（注意１）

コマンド名：$ ps -aux | grep comsol | grep lmgrd

出力結果：

owner@cn20:~$ ps -aux | grep comsol | grep lmgrd

root 796 0.0 0.1 14168 4108 ? Sl 09:29 0:00 /usr/local/comsol##/multiphysics/license/glnxa64/lmgrd -c /usr/local/comsol##/multiphysics/license/license.dat -L /var/tmp/comsol##.log

root 799 0.0 0.1 178048 4568 ? Ssl 09:29 0:00 LMCOMSOL -T cn20 11.18 7 -c :/usr/local/comsol##/multiphysics/license/license.dat: -srv 1tmgMr3A6cUkHR90V33fWpD7zG0g32C9AKRgngZQoZIZ2RBIYnuef9dfVZ0VYH -daemon_port 6b7 --lmgrd_start 6711abe7 -vdrestart 0 -l /var/tmp/comsol##.log

owner@cn20:~$

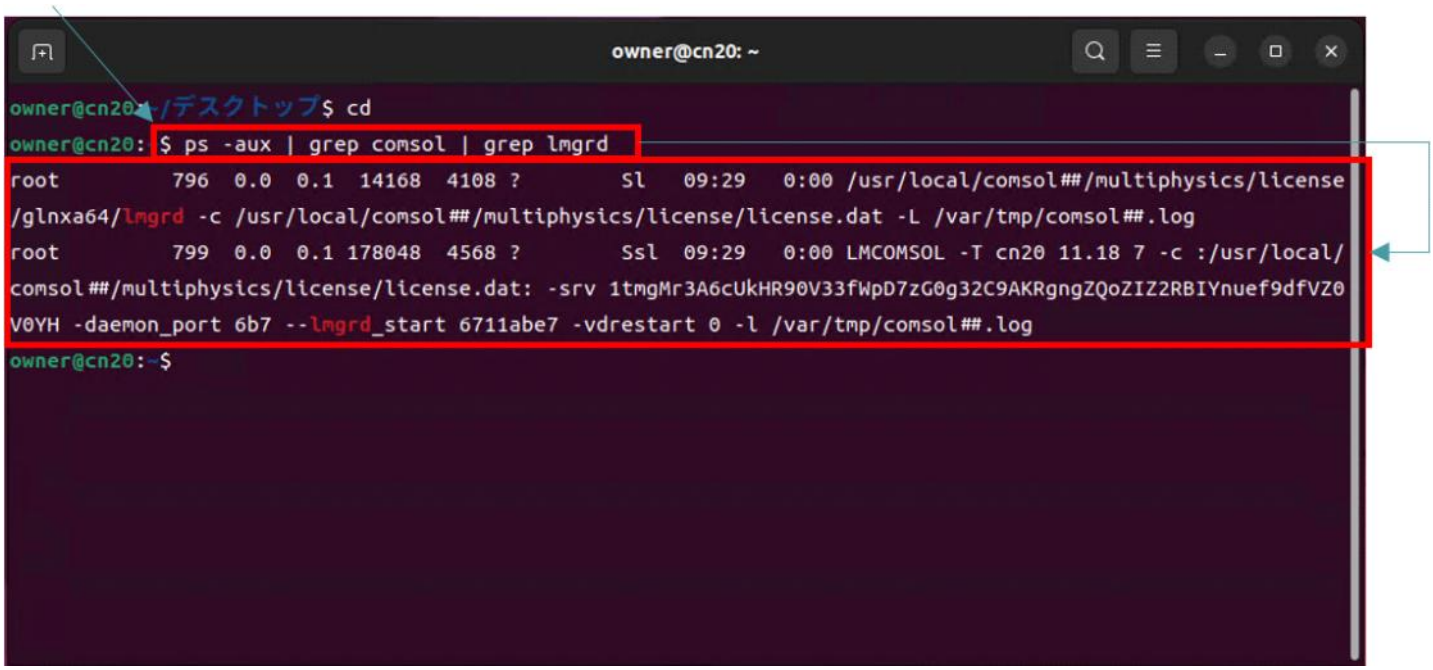

図4-1 起動中の lmgrd と LMCOMSOL

注意１：##は指定されたバージョンの数値に変更します。

コメント：上記のようにlmgrdとLMCOMSOLが表示されている場合、COMSOLライセンスマネージャーが実行していることになります。

【4.2】COMSOLライセンスマネージャーサービス（lmcomsol.service）の設定内容を確認します。

i. 現在、実行しているCOMSOLライセンスマネージャーサービスの設定内容を確認するため、ターミナルで下記コマンドを実行します。

$ cat /usr/lib/systemd/system/lmcomsol.service

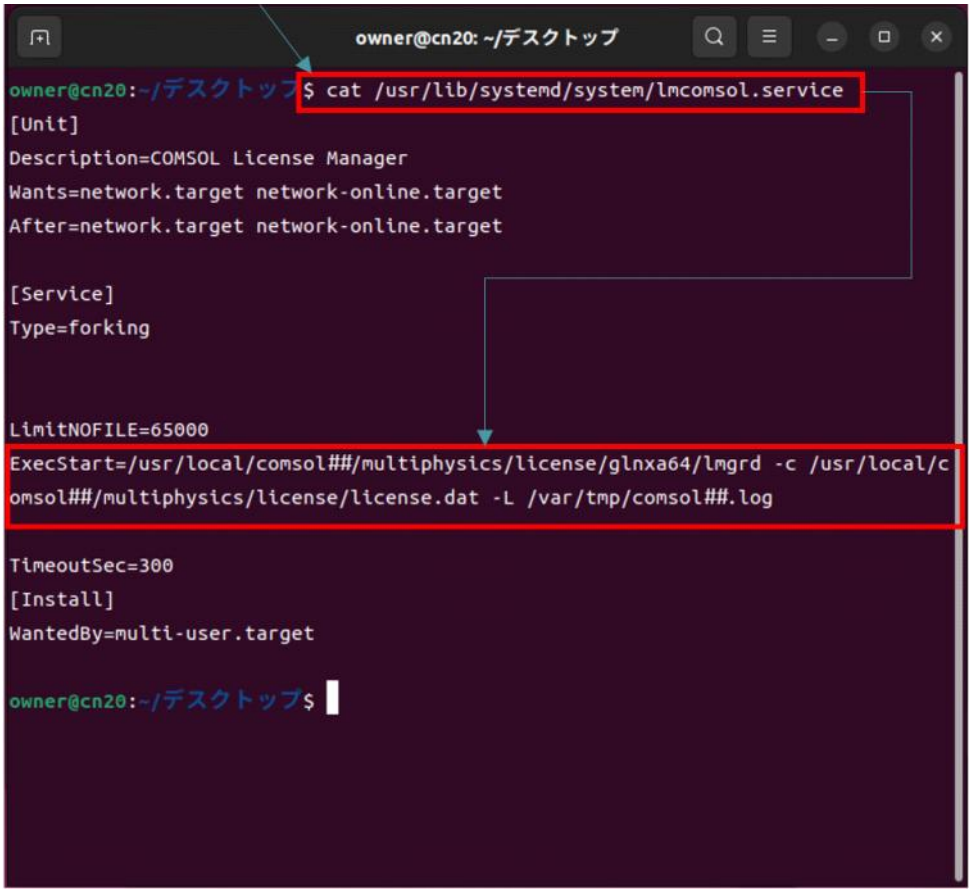

図4-2 lmcomsol.service

ii. 上記コマンドで出力された11行目「ExecStart」に記載されている絶対パスが今回セットアップしたインストールディレクトリと同じであることを確認します。（注意１）

ExecStart=[絶対パスの実行ファイル] -c [絶対パスのライセンスファイル] -L [絶対パスのデバッグファイル]

注意１：##は表示されている数値に読み替えてください。

• お問い合わせ先

COMSOLライセンスマネージャーを正常に実行できない場合やCOMSOLライセンスマネージャーサービスが正常にセットアップできない場合、下記情報を収集していただき、弊社の問い合わせ窓口にご送付ください。

- 問い合わせ先窓口

KESCO担当営業がお客様に「ライセンスファイル」を送付した場合⇒①
お客様が直接KESCO技術サポートに依頼したい場合⇒②

①	窓口：KESCO担当営業 Eメール：KESCO担当営業のメールアドレス
②	窓口：KESCO技術サポート URL：https://kesco.co.jp/supportlist/

- お寄せいただきたい情報
  i. エラーメッセージ等をキャプチャーした画像ファイル
  ii. Linux®ディストリビューション名とバージョン（下記）
  iii. インストールに使用したライセンスファイル
  iv. COMSOLインストールログファイル（下記）
  v. COMSOLライセンスマネージャーログファイル（下記）
  vi. 上記 i ~ v 以外で指示されたファイル
- Linux®ディストリビューション名とバージョンを下記コマンドで採取します。
  コマンド　$ cat /etc/os-release > ~/os-release.out
- COMSOLインストールログファイルのデフォルト保存場所（注意１）

  /usr/local/comsol##/multiphysics/comsolsetup.log
- COMSOLライセンスマネージャーログファイルのデフォルト保存場所（注意１）

  /var/tmp/comsol##.log

注意１：##は指定されたバージョンの数値に読み替えてください。

以上